

りますが、かねては月2回、それぞれ作って販売をしております。

部会が4つあって、部会が主体性を持って地域のことを取り仕切っているわけですが、青少年部会では、子どもたちが夏休みの初めに、おもりをつけたり、車椅子に乗ったりして、体が不自由になったらこんなふうになるんだよということを体験して、優しいいい子に育ててねということでやっております。

それから、正月には地域の高齢者がふるさと先生になられて、書き初めとか詩吟とか茶道とか、七草がゆを食べて帰るとか、こういった行事のほか、うちは秋祭りをいたします。収穫祭ですけども、「といあげ祭り」ということで、これは青年たちが全部仕切ってくれますが、そういったことで今年も11月1日に予定をしておりますし、お近くの方は蒲生の太鼓坊主の方も今回お見えになってくださいますので、ぜひお立ち寄りいただきたいと、11月1日の5時から開演をいたします。

舞台下の土台は、楽器を持ち込む関係でどうしても屋根が欲しかったんですけども市の補助事業マイスターで、材料だけはもらって労力は自前で出すということで、地域の青少年部会を中心に、若者が丸太をもらってきて屋根を作ってくれました。その様子でございます。



秋のといあげ祭りですが、いろいろ出し物が出たり、フラダンス、それから弾き語り、おやじバンドというのが結成されておまして、おやじバンドが出たり、焼き餅とかうどんとかそういったのを出して、みんなで飲んだり食べたり、いろんな出し物を楽しむということをしております。

異年齢交流事業ですが、先ほど来たくさんありましたけれども、12月の冬休み前にはミニ門松づくり、しめ縄づくり等をして、子どもたちは持って帰ります。

それから、「わくわく馬越ん子塾」ということで、県のほうから表彰もいただいたんですが、

先ほども申し上げましたが、書き初めや七草がゆ、剣舞とかいろんなことをやって、お茶とか楽しんで、大馬越小学校は今、16名ですけれども、子どもたちもみんなコミュニティセンターとの関わりも深く、いい子に育ててくださっております。

平成26年度から新規事業で、先ほど申し上げましたが、赤ちゃんの声が聞こえないということもございまして、新生児誕生日に金券をあげるということで、第1号の方も上原さんという方が最近、受賞されたところです。

次に、自治活動部会ですが、あいさつ運動は全ての部会、それぞれ年間予定を組んでいますし、文化祭は小学校と合同ですけれども、子どもたちから高齢者まで実施します。昨年は歌手の榎木美優さんに来ていただいて、非常に素晴らしい歌声を聞いたところでございます。青パトも、私たちのところでは最初25台おりました。この青パトも、最初はそれぞれ出発式を校区ごとにやっておったんですけれども、入来は一つということで、5地区合同出発式も現在やっているところです。

安心・安全モデル事業ということで、合併すればなかなか末端の小さいことまで行政も気がつかないというような一面もございまして、地区の11の自治会長さんたちに寄っていただいて、自治会を回って、側溝のふたとか排水の状況とか、高齢化を迎えればなかなか市道の雑木の伐採



が難しいと、そういったのを点検して、各関係機関にお願いしたり、ボランティアでもらったりしている、入来では大馬越だけだと思うんですが、こういった細かい事業をやっているところでございます。

さなぶり会ということで、昔は各家庭でされておったんですけれども、今はコミュニティ協議会でやります。生きた鶏を買ってきて、男の人たちがつぶして、男性料理教室も兼ねてやりますが、晩はこうしたことで、それぞれ楽しみながら懇親会をしますけれども、昨年は、市に中国から国際交流員の方が来ておりまして、お招きして話を聞いたところでございます。

また、入来には八重という所に城山ゴルフのゴルフ場があり、地元にある関係で何とかこういう事業もしようということで、今年から始めた親善ゴルフ大会は、非常に喜んで参加してもらっておりますが、(ゴルフは)10年ぶりだとか3年ぶりだとか、そういった人たちも、

一緒に和気あいあい、絶景の中で大会の1回目をしました。

環境地域づくり部会ということで、この部会が中心になってシソジュースを作っております。シソジュースのメンバーですけれども、80歳の方が3～4名いらっしゃいます。その方たちを「しそ



娘」というふうと呼んでおりました、喜んで来てもらっているところでございます。他にも花植えとか、一昨年までふるさと宅急便ということで、地元でとれた品物を入れて県外に送っておったんですけれども、昨年は大豆が獲れなかったりして、今は中止しておりますが、県外の方に非常に喜ばれております。



それから、ホタルの夕べということで、5月末から6月初めにホタルが出るところがあるんですね。そこに行く場合に、6時からそれぞれ飲み食いしながら、焼き餅を焼いたり、キピナゴを焼いたり、うどんを出したりして、子どもたちがホタルにちなんだ劇をしたり、剣舞をしたりして楽しん

だ後、600メートル歩いて行ってホタルを觀賞してもらおうということで、その600メートルにはずっと竹灯籠を立てて觀賞してもらっているんですが、ここずっと雨が降って、なかなか行事が思うようにできないという実態にあります。

各種イベントがいろいろあり、八重高原の星空高原物語、といあげ祭り、清修館高校産業祭、JAフェスタというふうにあるんですが、餅を前の日に500個、30キロついて丸めて、次の日に串を刺して、ああいうふうに焼いて、焼き餅を売るということで、これについては行列ができるぐらい好評をいただいているところです。

コミュニティビジネスということで、今年から市の補助もいただいて展開をしているわけですけれども、全国を回られるバイヤーさんがいらっしゃいます。目利き、腕利きのそういった人からいろいろご指摘をいただいて、製品検査、バーコード登録、ラベル、瓶の変更、販

売方法、在庫、こんなのをどうされているんですかということをご指摘いただいたので、それを改善すべく拡大鏡を入れたり、金属探知機を入れたり、バーコードの機械を入れたりしました。また、商標登録を取っていなかったものですから、「しそっぶ物語」で商標登録を今、申請中でございます。間もなく来るとは思いますけれども、こういったこと、ラベルもワインとよく間違われるんですね。他にも、地域性が出ていないんじゃないのというような指摘もあり、そのような点もいろいろ検討していこうかなというところでございます。今年から、ゆうパックも始めました。健康志向の飲み物としてだんだん広がりつつあります。

健康福祉部会ですが、この部会はいろいろやっておりますけれども、ふれあい弁当配付事業ということで、11月23日に、もうかなり長くやっておりますが、対象高齢者宅に約200食作って、安否確認を兼ねて弁当を配付して喜ばれているところでございます。異世代間交流事業も、しめ縄等をなえる高齢者が今、なかなかいらっしゃらなくて困っているということと、サロンで、薩摩川内市や市街地にこんなに七夕をたくさん飾ってあります。これはちょっと前の写真ですけども、90代、80代、そういった人たちが主でございます。

ふれあい弁当の関係でございますが、朝7時半から女性の方が35名ぐらい入って、それぞれ仕込みをし、男の人たちが自治会長さん、班長さん、部員の人たちがずっと並べて配食をします。この弁当は地元産食材だけで作ります。から揚げとかサバとか魚とかそういったのは一切入っておりませんが、最近、おいしかったよという電話があつたりしますけれども、豆腐を入れて、紅葉を添えてメッセージを入れて配るということで、大変喜ばれております。

それから、それぞれこういった福祉標語を皆さんから、主に子どもたちを中心に募集をしまして、校区内に大体50カ所ぐらい立てて、それぞれ福祉を推進するということ子どもたちから高齢者までひっくるめてやっているところでございます。

高齢者見守り支援ネットワークでございますが、高齢化が43%ということと、ゴールド集落が5つあるということで、高齢化が非常に進む中で5年後、10年後を見据えてどういったことをやっていこうかということで、それぞれの地域の最も支援を必要とする人たちを、皆さんで協議をしていただいて、そういった方々に、ある人が月曜日に行つたと、ほかの人も月曜日に行つたとそういうことがないように、月火水木金土、それぞれ平均して見守りをしていこうという形で、こういったネットワーク事業を展開していくというふうにしております。特に、民生委員さんとか自治会長さんだけにこの苦勞をしていただくのではなくて、やっぱり総ぐるみでそれぞれ見守りをしていこうということに、今年から鋭意取り組んでいるところです。

NPO法人、大学との関わりも、年間、川下りとか、棚田の田植えとか水生生物調査とかいろいろやっております。

グリーン・ツーリズムの農家民泊も入来で20件ぐらい、関東・関西の中高生を受けているんですけども、農作業の手伝いとかそば打ちとかお餅づくりとか、雨が降ったら主にそば打ちですが、かけ干し米づくりとか、こういったのを体験して、日帰り・1泊・2泊あるんですけども、帰る時は中高生が本当に喜んで帰ってもらっているところです。

課題は、どうしても人口が減っていくということで、もうやむを得ないんですが、それから高齢者をいかに効率よくといいますか、無理・無駄のない見守りをやっていくということと、それから、地区で役員になり手がいないと、自治会長さんたちもなかなかなんです。やあ合併はどうでしょうかと言えば、なかなか自治会同士の合併も難しいということでございますが、後継者もお茶とか、きんかん農家は20人ぐらいおりますけれども、あとは田んぼもだんだん作れなくなる人が増えてきますが、その受け皿づくりをしていかなきゃどうしても荒れるというふうに心配しております。

それから、集落営農もなかなか取り組みが遅れているということでございますが、今、地区の特産品としては、シソジュース等を作っておりますけれども、なかなか販路が難しいということがありまして、製造と販路、こういった確保ができたらなというふうに思っております。重点の取り組みですが、市も六次産業対策監ということで、新しい部長ポストを設けて力を入れてもらっておりますが、それに合うような取り組みをしていきたいということと、先ほど言いましたグリーン・ツーリズム、「きゃんぱく」というのはどっちかという、「きゃんせ博覧会」ということで、皆さんに楽しんでもらうコースをいっぱいつくっている、そういった取り組みもしております。

それから生涯学習も、あまり他にはない剣舞というのがございますが、こういった郷土芸



能の伝承やら、もう地域を越えて今、取り組みをしていくということにしてありますし、ゴールド集落への支援ということで、それぞれ道路の草を払ったり、いろんなこともやっていきますし、何といましても、高齢者対策のネットワークづくり、これに力を入れて

いくということにしております。また小学校の16名の児童たちがいろんなことで頑張ってくれております。

最後にきました。販売CMということで、「しそっぷ物語」を今日のためにストックをして受付の所に持ってきてございます。全ての工程が手作業で、今年は限定3,000本作りしました。昨年はおれんじ鉄道さんがたくさん使ってくださいまして、4,300本作りしました。原料は全て地元産で、入来のお水は、水源地が山の中腹にあるんです。ですから、素晴らしい水、地域でできたシソ、そういったのを使って製造しておりますが、1本800円ということで値上げをしております。今、夏からすれば時期をちょっと逸しておりますけれども、焼酎にちょっとずつ入れて飲んだら、それはおいしいです。牛乳に入れてもおいしいです。冷水だけでなくホットで飲めばまたおいしいし、非常に体に良いというふうに言われております。

これは先日、新聞にも載せていただきましたが、北九州市小倉駅前の郵便局で初めて県外販売をしました。人様は非常に多く通られるんですが、人様の気持ちを、心を動かして買ってもらおうというのは非常に難しかったですけれども、2日間行きまして、2日の午後2時ごろには完売いたしました。シソジュースを240本、それから「姫しゅわり」と、シソをもとにサイダーを作っておりますが、今日もちょっと持ってきておりますけれども、それ。それから、キュウリの漬け物とか持っていったんですけれども、これは県の関係、市の関係、マスコミ、FMさんたちのご支援をいただいて成功しましたけれども、これからもこういったノウハウを生かして事業を展開していきたいなというふうに思っているところでございます。特に、県人会の方にもお世話になりました。

左の上は、先ほど言いました絵画、絵を描く人たちの風景でございます。下は、入来はきんかんが11月の中旬以降出ます。甘くて丸かじり、非常に風邪にも効果があると言われておりますが、ぜひ皆さんもご賞味いただければありがたいなと思っております。

私はこうして講演に回るのは、えびの市ほか県内で12～3カ所、今、回らせていただいておりますけれども、大馬越に研修に見える方も年間20～25団体お見えになります。各自治会、町内会、議会、それから大分県なんかは（地域づくりの）先進地ですけれども、大分県の方とか、四国、奈良、北海道、新潟、鳥取、九州



## 基 調 講 演

はほとんど市の方がお見えになりますが、シソジュースをもとに地域づくりをやっていると、何かをしたいと、何かのきっかけにしたいということでお見えになりまして、せんだっても宮崎県の川南町から議会の方がお見えになったんですが、4回目です。それぐらい熱心に来ていただいて、私どもも非常に意見交換に熱が入っているところでございます。

以上、ご清聴、大変ありがとうございました。ごきげんよう。これで終わりたいと思います。  
シソジュースをよろしくお願ひしたいと思います。(拍手)